

<第4239回>

目的地：吉野山（大峯奥駈道）

担当者：宮田

実施日：2022年4月23日（土）

形式：日帰りハイキング

費用：¥2,690.-

参加者：12名

天気：曇り時々晴れ

行程：

近鉄六田駅(8:50)→柳の渡し(9:00)→一の坂取りつき(9:10)→(9:40)吉野神宮(9:50)→(10:40)金峯山寺[昼食・吉野山観光](11:45)→(12:40)吉野水分神社(12:45)→(13:20)金峯神社(13:30)→(13:50)青根ヶ峰(14:00)→(15:30)蜻蛉の滝(15:40)→(15:50)あきつの小野公園[解散]

感想：

世界遺産「大峯奥駈道」を歩いてきました。

大峯奥駈道は1200年前に「役行者」が拓いた聖なる修験の道。紀伊山脈の峻険な稜線を辿り、奈良吉野と熊野三山を結ぶ非常に過酷な山岳縦走路です。ルート上には神仏の宿る「靡（なびき）」と呼ばれる拝所が75箇所あり「大峯七十五靡」と呼ばれています。熊野から吉野へ北上することを「順峯（じゅんぶ）」逆方向を「逆峯」と呼び、今回は逆峯の序盤部分を歩きました。75番靡～70番靡の6つの靡を通過することになります。

定刻に近鉄電車の六田駅を出発。まもなく奥駈道逆峯の起点「柳の渡し」に到着。いよいよ「大峯奥駈道」に足を踏み入れます。

すぐに最初の急登「一の坂」。これを登ったところが75番靡「柳の宿」です。現在、靡は別の場所に移されており、ここには小さな祠と記念碑がひっそりと残るだけですが、今回は古来の奥駈道を忠実に辿るために、こちらの古来の靡に立ち寄りしました。

柳の宿から、現在廃道となっている地道を進みます。この区間は並行する県道を歩く人も多いのですが、ここも古来からの奥駈道を忠実に辿りました。落葉の積もる道を倒木をまたぎながら進み、30分ほどで「吉野神宮」に到着。ここは74番靡「丈六山」があった場所です。靡は跡形も残っていませんが大変立派な神社です。Iさんに「祭神は後醍醐天皇だよ」と教えていただきました。皆で参拝。

ここからしばらく車道を進み、吉野山観光地内の「金峯山寺」に到着。ここは73番靡「吉野山」です。

境内で一旦解散し、各々で昼食と周辺観光の時間としました。金峯山寺秘仏「蔵王権現像」の特別ご開帳期間であり、Nさん、Mさん、Sさん、私の4名で拝観。有難く礼拝しました。

奥駈道はここから徐々に厳しさを増していきます。舗装路の急登を2時間弱。「吉野水分神社」（72番靡）を経て「金峯神社」（71番靡）に到着です。平家に追われる源義経（弁慶）が隠れていたという小さな社の見学を兼ねて小休止しました。

金峯神社横の急な石畳の坂を登り切ると舗装路は終了です。ここから山道を少し登ったところが今回通過する最後の靡、70番靡「愛染宿」です。現在はただの空地ですが、往時はこの場所が吉野山の神仏信仰の中心であり多くの社寺建造物が存在したそうです。金峯山寺の蔵王堂もこの場所から遷移したとのこと。

ここから青根ヶ峰ピーク直下まで眺望の良い尾根を歩きます。そのピーク直下には「従是女人結界」と書かれた石碑が残されており、往時はここより先（山上ヶ岳を越えるまで）が女人禁制であった事が偲ばれます。この石碑から奥駈道を離れ、青根ヶ峰のピークを目指します。

※ちなみに現在の女人結界は、かなり先の「五番関」に移されています。

急な丸太階段を登り青根ヶ峰山頂に到着。今回の最高地点です。小休止して写真を撮り「蜻蛉の滝」方面に向け下山を開始しました。

あまり利用されていないと見受けられる山深いトレイルルートを蜻蛉の滝に向け下ります。途中、軽く崩落した箇所や、朽ちて大きな穴の開いた木橋などを通過して蜻蛉の滝に到着しました。

万葉集にも、その美しさを歌われている滝であり、晴れた日には虹がかかることから「虹光（にじこう）」の別名を持ちます。当日はあいにくの曇り空でしたが、Iさんに教えていただいた滝つぼ近くのテラスから見る滝の迫力に圧倒されました。

蜻蛉の滝から近くの公園に下り山行終了。思いのほか皆さんの歩くペースが早く、約1時間のバス待ちとなりました。

今回、初担当させていただきましたが、参加者皆さんの暖かいご支援により、無事に楽しく山行を終えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

また、今までソロで勝手気ままに山歩きを楽しんできた私ですが、今回の山行計画から例会実施までのプ

ロセスを通じて「パーティ登山」の楽しい一面と、リスクを共有するという責任の重さを身を以って学ばせていただきました。貴重な経験のきっかけを与えてくださったTさん有難うございました。

特 記：

金峯山寺秘仏蔵王権現像の特別御開帳は期間限定です。拝観料は1600円。